



山陽小野田市

Sanyo-Onoda City



「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！」の充実

山陽小野田市教育委員会 松浦 美彦

本市は、もとも学校支援地域本部事業が盛んであり、「地域教育協議会」を中心に、地域が学校を支援する取組が行われており、学校運営協議会との一体的な取組づくりができています。また、全ての公民館長を第2コーディネーターに位置づけ、小中学校と連携した取組が盛んに行われている。これからは「学校支援」「地域貢献」により、多くの子どもや保護者、教職員や地域住民が参加できる取組や手立てを進めていき、本市のテーマである「地域力・学校力・家庭力」の向上・発展につなげていきたい。

山陽小野田市の推進構想

山陽小野田市では、平成20年度から国の委託を受けて「学校支援地域本部事業」を開始しました。当初は市内8校による先行実施でしたが、平成24年度からは全小・中学校でこの事業を導入し、学校支援が盛んに行われてきました。平成27年度にコミュニティ・スクールを導入する際、この学校支援の取組である「学校支援地域本部事業」と融合させた形で、社会教育課が舵取りを行い「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！」を開始しました。学校支援地域本部事業とコミュニティ・スクールの垣根をなくし、学校支援の取組をベースに、学校づくり、地域づくりの両面から取組を進めようとするものです。

「仕組み」から学校支援地域本部事業とコミュニティ・スクールを一体化させるために、全教職員が参加する地域教育協議会(学校支援地域本部の会議)で策定した「学校・家庭・地域の連携に関する基本方針」を、学校運営協議会で承認を得る形をとっています。

プロジェクトが始まる前は、教頭と地域のコーディネーターが打ち合わせて学校支援の取組を進めていましたが、全教職員が参加し、知の部会、徳の部会、体の部会に分かれて地域の人と協議する場が設けられたことで、多様な取組が提案されるようになり、学校支援の取組がより充実しました。

地域協育ネットの取組も盛んで、竜王中学校区の「りゅうみんネット」は、中学校区の4校と地域が一体となり、合同の地区懇談会の開催やクリーン作戦の実施をしたり、地域カレンダーの製作をしたり、毎週月曜日は「ほかほかDAY」と決めて地域を挙げて実施するなどの取組で平成29年度「やまぐち型地域連携教育」に係る優良「地域協育ネット」として山口県から表彰を受けました。

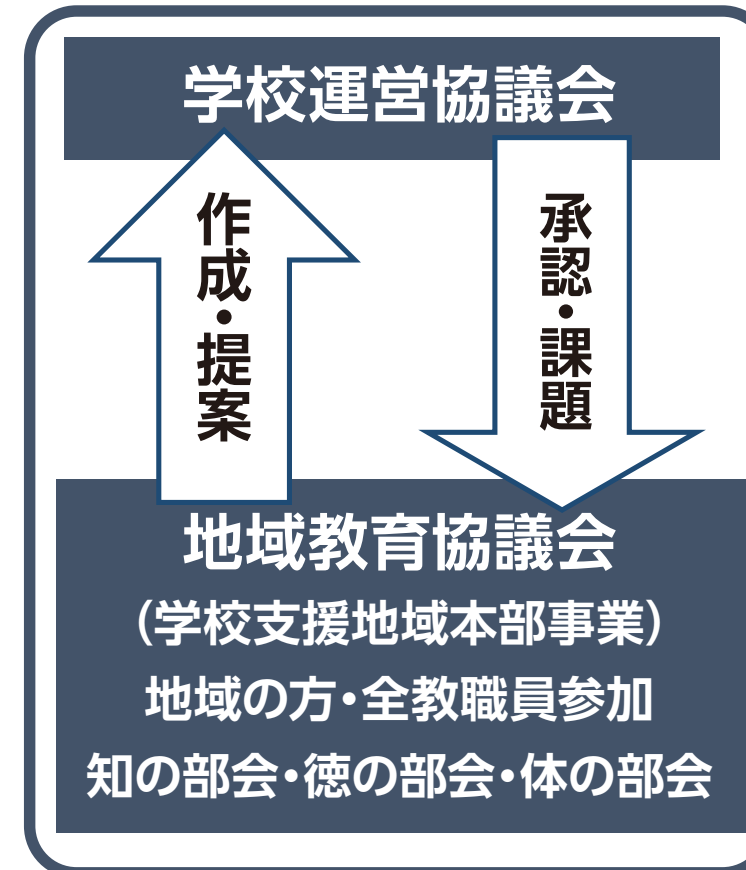
また「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！」の中心に公民館を置き、学校支援の取組の中心となっている第1コーディネーターと協力しながら、公民館職員が第2コーディネーターとして、地域の特色を反映した取組を進めています。

右の写真は、地域と小学校の合同フェスタの様子です。有帆小学校は年々児童数が減り、学習発表会の規模が縮小傾向にありました。公民館主催の地域の文化祭も活気が不足した状況にありました。そこで、校長と公民館長を中心に何度も打ち合わせを行い、地域と学校の合同開催をすることとなりました。合同開催当日は有帆公民館のコミュニティ体育館がいっぱいになりました。児童が、ステージの公民館クラブの発表に合わせて体を動かし、歌を歌うなど、ほほえましい姿がありました。公民館クラブの方々も子どもたちの注目を浴び、多くの観客に鑑賞してもらうことで、演奏や演技に熱が入りました。子どもたちも、地域の多くの方に発表を見てもらい、大満足でした。



この他にも、小学校でふるさと学習の公民館講座を実施し、6年生と地域の方が一緒に学んだり、6年生の図画工作の授業、版画学習に公民館の版画講座を重ねて開催したりする取組が広がっています。学校と地域が互いの課題を共有し、解決策を模索することで、学校づくりと地域づくりが進んでいます。

家庭教育支援チームは、これまでは、小学校の就学時検診時に子育て講座を行っていましたが、なかなか活動が広がらない状況でした。今年度は、県の委託を受け、小野田中学校区で家庭教育支援チームが新たな取組を始めました。10月20日には、須恵小学校を会場



に、「親の学び」プログラムin小野田」と題して、研修会を実施しました。小野田中学校、須恵小学校、小野田小学校の保護者に対し、参加を募りました。当日は、最初に子育てや家庭教育に関する全体講話を社会教育主事が行い、その後、親子活動で体を動かし、場の雰囲気はほぐれたところで親子別の活動に移りました。親は、家庭教育支援チームのメンバー、各小・中学校の保護者が入り混じった班での「すごろくトーク」を行いました。最初のうちは、知らない同士で緊張もありましたが、時間がたつにつれて親密度が増し、笑顔で話し合いが行われました。子どもたちは、中学生の指導のもと、オリジナル缶バッジづくりを行いました。生徒会とボランティア部を中心とした中学生が、小さな子どもたちに優しく接し、和やかな活動となりました。



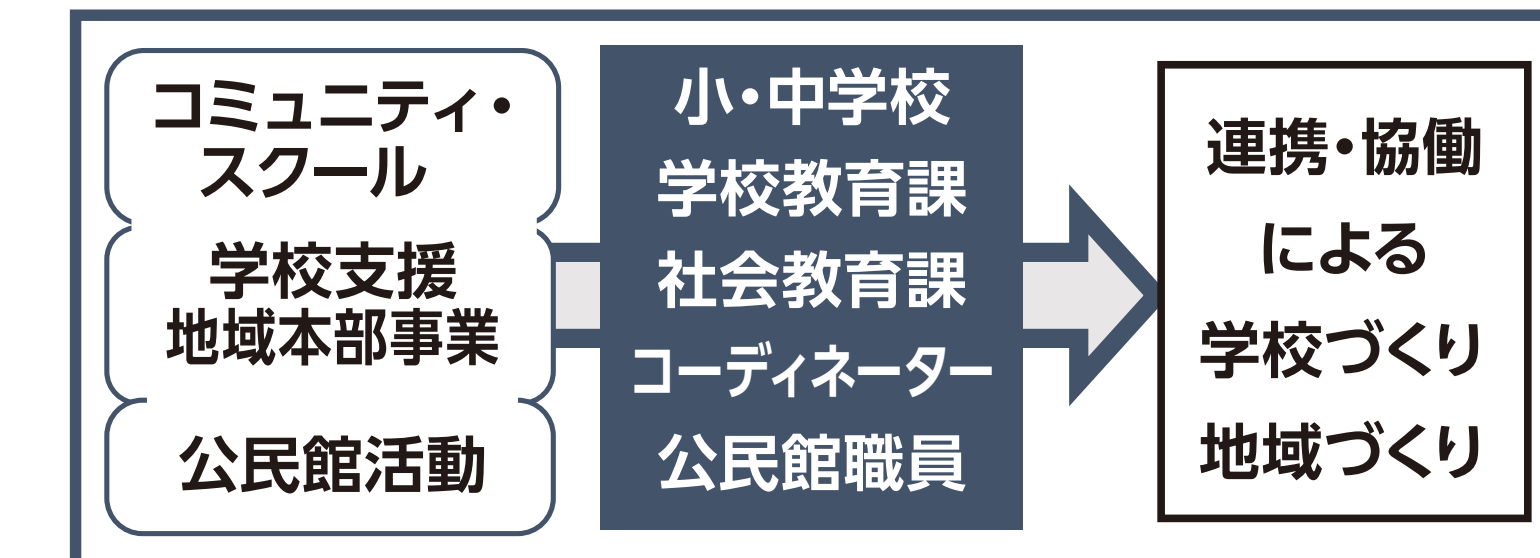
高千帆中学校では、10月27日の文化祭において、「長年にわたる人々の労苦によって復活する西校舎「たかちほ学舎～地笑の和～」オープニングセレモニー」と題してコミュニティ・ルームのお披露目がありました。以前は教室でしたが、生徒数の減少とともに、ここ数年間は使われることがなくなった西校舎は、物置場状態となっていました。そこで、保護者や地域の方々の憩いの場である「コミュニティ・ルーム」として活用するために、平成28年度から生徒、教職員、保護者、地域の方で改修作業を行ってきました。この西校舎は平成29年度の生徒会執行部の皆さんが「たかちほ学舎～地笑の和(ちえのわ)～」とネーミングし、「地」「笑」「の」「和」の4部屋に分かれています。

ようやく改修作業が終了し、文化祭では、バザー、公民館講座の作品展示やオカリナ演奏、抹茶の接待の会場として使用されました。多くの方々の長年にわたる労苦によって、学校と地域をつなぐコミュニティ・ルームとして生まれ変わりました。



このように、山陽小野田市では、学校支援を基盤に、学校と学校教育課、社会教育課、公民館が緊密に連携し、取組を重ねてきました。各小・中学校で、地域の実情や学校規模に応じてコミュニティ・スクールとしての独自性が発揮されてきています。

これからも、「地域とともにある学校」づくり、「学校を核とした地域」づくりに学校教育課と社会教育課、公民館が連携して支援を続けていきます。



学校運営に係る取組

学校支援に係る取組

地域貢献に係る取組

学校(園)が連携した地域ぐるみの取組

取組



地域貢献に係る取組

山陽小野田市立有帆小学校

特別養護老人ホーム「高千帆苑」を訪問し、あやとりやお手玉、けん玉などで一緒に遊ぶことを通して、子どもとお年寄りとの温かい交流をすることができた。



学校(園)が連携した地域ぐるみの取組

山陽小野田市立須恵小学校(会場)、小野田小学校、小野田中学校

「[親の学び]プログラムin小野田」と題した家庭教育支援チームの活動で、中学校区3校の保護者を対象に、ゲーム等を通して子育てについての情報交換や悩み相談を行った。



学校運営に係る取組

山陽小野田市立須恵小学校

ユニット型研修会
1000日プラン該当者が授業を行い、学校運営協議委員やPTA役員に参観をしていただいた。その後1000日プラン該当者を交えて授業に対する意見交換を行った。



学校支援に係る取組

山陽小野田市立高千帆中学校

学校と地域の交流ステーションの設置に向けて、地域教育協議会と生徒会が協力して、3年がかりで空き校舎の整備を行った。今年度完成し、文化祭でお披露目をした。



地域貢献に係る取組

山陽小野田市立高千帆小学校

「地域の行事に参加しよう」カードを作成、参加した行事の欄には児童がデザインしたシールを貼るようにしたことで、地域行事への積極的な参加が見られた。



学校(園)が連携した地域ぐるみの取組

山陽小野田市立本山小学校

地域教育協議会で「夏休み、地区全体でラジオ体操を実施して健康になる」と決まり、地域に呼びかけ、夏休みの小学校環境奉仕作業前にラジオ体操を行った。



学校運営に係る取組

山陽小野田市立厚陽小中学校

地域と学校が一緒になって子どもを育てるという原点に立ち戻り、「どんな子どもに育てほしいか」という課題で地域と学校が分かれて熟議を行った。地域の思い、学校の思いを共有し、互いにどんな支援ができるかを協議していった。



学校支援に係る取組

山陽小野田市立厚狭中学校

3年生を対象に「厚狭人ダイアログ」を実施。生徒2~3人と地域の先輩1人が本音で言葉を交わしながら、自己実現を支援していく活動を通し、生徒自身の人生観を育む機会付けた。